

20. chemical meningitis を反復した頭蓋咽頭腫の一例

渡辺 正人・佐藤 進
関口賢太郎・西沢 英二 (山形県立中央病院)
山中 竜也・黒木 亮
森 修一・佐藤 勇 (脳神経外科)

症例 37才, 男性.

昭和58年9月頃から鼻閉感, 間歇的発熱があり慢性副鼻腔炎の診断で入院中, 徐々に頭痛, 嘔吐が出出現し当科初診. 神経学的には視力低下と髄膜刺激症状を認め, 内分泌検査で汎下垂体機能低下と尿崩症が明らかであった. 腰椎穿刺で初圧 180mm 水柱, 髄液は白色に混濁し, 細胞数 2336/3, 多核球優位で蛋白増加と糖の軽度減少あり. 培養は陰性であった. CT スキャンで鞍上部に嚢胞を伴う腫瘤があり著明な増強効果を示した. 12月13日手術を行い, 嚢胞を開放し腫瘍を部分切除したが, その後も昭和59年3月, 5月, 7月と同様の髄膜炎を反復した. 同年8月, CT スキャンで腫瘍の増大と水頭症を認め再手術. レーザーを用い全摘した. 患者はホルモン補充を受け復職し, 約10か月間, 髄膜炎の再発はない.

chemical meningitis を反復し全摘により治癒しえた頭蓋咽頭腫の一例を報告した.

21. CT の経過から, かなり急速に増大したと思われる頭蓋咽頭腫の一例

佐藤 清・板垣 晋一 (山形大学)
山田 潔忠・中井 昂 (脳神経外科)
川上 千之 (三友堂病院)
(脳神経外科)

頭蓋咽頭腫はラトケ嚢の遺残細胞より発生する良性腫瘍で, 好発年齢も10~15才であり, その発育は緩徐であると考えられる. 髄膜炎と下垂体機能低下症を呈した頭蓋咽頭腫例で, 10ヶ月前には症状もなく CT で上も異常を認めなかった例を経験したので報告する. 患者は52才の男性. 10ヶ月前に慢性硬膜下血腫で手術を行った. この時の CT では鞍上部に全く異常を認めず, 視障害, 内分泌症状もなかった. 10ヶ月後, 頭痛, 疲労性を主訴に来院. 神経学的には, 髄膜刺激症状のみ. 髄液に軽い髄膜炎の所見あり, 内分泌学的に汎下垂体機能低下症を呈した. CT で鞍上部に一部 enhance される mass を認めた. 頭蓋咽頭腫が疑われたが, 髄膜炎はすぐに治まり, 何ら神経症状を認めなかったので CT でしばらく follow した. その後も mass は徐々に増大し, 発症後4ヶ月で手術を行った. 組織学的に頭蓋咽頭腫であることが確認された.

22. 間脳障害による下垂体機能低下で発症した鞍上部 germinoma の2例

斉藤 研一・北村 佳久 (大船共済病院)
黒瀬 輝彦 (脳神経外科)

症例1. 12才女性. 成長障害で発症し半年前より食欲不振, るいそを認め二次性徴発現を認めていない. 単純 CT で第3脳室 Monroe 孔に軽度 high な mass を認め浮腫や石灰化は伴わず造影 CT で中等度に enhance された. 腫瘍内に低呼吸域を認め teratoma との鑑別が問題となった.

症例2. 28才女性. 無月経で発症し半年前より嘔気嘔吐, るいそを認め入院時に両耳側半盲を呈した. 単純 CT では第3脳室壁~側脳室前角壁に沿って軽度 high な mass が存在し造影 CT で中等度 enhance され germinoma に一致する像を示した. 入院時内分泌検査所見は2例共, 間脳障害による汎下垂体機能低下を示し入院後ステロイド補充により尿崩症の顕在化をみた. 手術による病理組織所見は2例共 germinoma で高い放射線感受性を示した. 鞍上部 germinoma の多くは尿崩症で発症するが, 間脳障害による下垂体機能低下で発症した非典型的臨床経過をとった2例につき文献的考察を加え報告する.

23. 放射線治療により内分泌学的改善のえられた Suprasellar germinoma の1例

高松 秀彦・関口ふく子 (国立札幌病院)
川合 裕・佐藤 純人 (第3外科)
藤原 秀俊 (脳神経外科)

Suprasellar Germinoma は放射線治療により腫瘍は消失するが, 視神経, 下垂体機能の予後は不良とされている. 我々は典型的な症例に放射線治療をおこない前葉機能の回復をみたので報告した.

症例は25才男子. 主訴は視力障害, 全身倦怠, 多飲多尿, 性欲低下などであり, 発症より7ヶ月目に当科へ入院した. 神経学的には視力視野障害のみで, 髄液細胞診, 各種腫瘍マーカーは陰性である. コントラスト CT にて鞍内・鞍上部にエンハンス効果を有する腫瘤をみる. 試験照射にて腫瘍縮小し, 総量 5080rad にて腫瘍は完全に消失した.

内分泌機能検査は, 入院時, 照射終了時, 照射5ヶ月後の3回に施行した. 前葉機能は照射5ヶ月後の検査にて完全回復をみたが, 後葉機能は回復しなかった. 入院時より高プロラクチン血症を呈したが, 照射開始10日目よりプロラクチン値は正常化した. このことは前葉機能予後を予測する示標となると思われた.